

20110305 現代政治戦略研究会議事録

日 時：2011年3月5日（土）15:00-18:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「地方政治のガバナンスの質を向上させるための仕組みと、
ローカル・マニフェストが生み出す新しい地方政治
～ビジネスパーソンによる若手地方議員サポートの仕組みの構築～」

発表者：発表者 高橋亮平氏（元市川市議、現・松戸市政策推進研究室室長）

原口和徳氏（埼玉ローカル・マニフェスト推進ネットワーク事務局）

参加者：参加者 16人（発表者除く）

（財務コンサルタント、経営コンサルタント、会社員、公務員、新聞記者、
大学生、NPO法人理事長、公認会計士、行政書士・司法書士など）

会長から開会挨拶、戦略研・政治研の趣旨、今回ミーティングの趣旨

→資料「戦略研概要」

趣旨：

統一地方選盛上げ企画の第3弾です。

若手で、志があり、専門領域のある地方議員を増やし、ビジネスパーソンがサポートして
いくことが、地方政治（ガバナンス）を変え、さらに国政（政党）を変えていくためのボ
トムからの第一歩です。

メモ：

高橋亮平氏より、

「政策立案や政策評価、行政チェックなど、地方政治のガバナンスの質を上げる
ための仕組みについて、政治家だけでは残念ながら地方政治のレベルが
上がらないのが現状です。

政治家と市民あるいはビジネスパーソンとが一緒に作り上げていく必要性について」

- ・地方議会のあるべき姿。二元代表制と議会の役割
- ・地方議会の現状。①政策提案能力がない、②行政チェック能力もない
- ・市議会議員は何ができるのか？。高橋氏の市川市議会の具体的事例にて

- ・できるようにするにはどうすれば良いのか？。①能力の高い議員を増やす仕組みの構築、
②議会が機能する仕組みの構築
- ・能力の高い議員の要件の一つは、有権者の知るべき情報を伝えることができること
- ・課題。有権者の質の向上。①議員がクリーンかどうかと能力があるかは別、
②どの候補者が何を言っているのか有権者は知らない
- ・解決策。マニフェスト・サイクルとマニフェストの比較ができること
- ・マニフェストには、具体性と数字が重要。また、4年前の選挙時と比較ができること

- ・議会が機能する仕組みを構築するには、自治体のガバナンスの仕組みの再構築が必要
そのためには、議会と行政と市民との関係の明確化と共有、
そして、市民がガバナンスに加わる仕組みの構築が必要
- ・たとえば、自治体のガバナンスをサポートする、非営利セクターによるシンクタンク
全市の共通課題に対応する

- ・まとめ。政治家にだまされないために。政策目的の明確化と効果（アウトカム）の測定・
共有を無駄を止め、必要なものを手厚く

原口和徳氏より、

「選挙に際してのマニフェスト型公開討論会や市民によるマニフェスト検証大会
の事例等、マニフェストの活用に関する全国的な動向も踏まえながら、
市民の立場からのマニフェストとの関わりについて話題提供」

- ・マニフェストとは、「はっきりと示す公約・政策集」。検証可能性を確保することが重要
住民にも、当事者としての責任が強まる
- ・マニフェスト・サイクルの必要性。PDCAサイクルにより政治の「質」を高めること
が期待される

- ・マニフェスト型公開討論会により、有権者にとっては投票の判断材料の獲得ができる。
また、候補者にとってはリーダーシップの強化をはかることができる
- ・マニフェスト型検証大会により、有権者と政治家の間での会話を実現される

- ・マニフェストの広がり。都道府県知事選挙では「あって当たり前」のものへと変化
- ・また、マニフェストの実現のためには、行政の内部（行政計画）に取り組む工夫が欠か
せません
- ・地方議会議員選挙では、マニフェストを構想できる人が少ない。サポートが重要

- ・まとめ。マニフェストは、選挙を「お願い」から「約束」へと変化させるもの
- ・マニフェストの課題。①実践結果の活用方法（現職がいかに次のマニフェストに反映させるか）、
 - ②情報の公平性の確保（現職と新人の情報格差をいかに埋めるか）、
 - ③マニフェストの作成家過程の進化（有権者からの提案をいかに取り込むか）
- ・地方議会議員個人では限界がある。ビジネスパーソンによるサポートが必要

なお、後半では、ビジネスパーソンがプロボノ的に、若手地方議員の政策立案や事務所運営をサポートする（選挙後のサポート）仕組みの可能性について議論しました。

以上